

わたしたちの街にも、感動の輪を広げましょう

映画「<sup>エクレール</sup>お菓子放浪記」桑名市上映会

上映会場  
及び  
上映日

1 5月19日(土) ①10:30 ②13:00 ③15:30 ④18:00

桑名市民会館 大ホール

2 5月26日(土) ①10:30 ②13:00

桑名市民会館 大ホール

※開場は上映の30分前になります

入場料

前売券／一般 1,000円 (前売券は三重県内共通券とする)

当日券／一般 1,500円 小中高生 800円

● 入場料の一部を東日本大震災被災地に ●

桑名市上映会全ての入場券1枚から100円が、東日本大震災復興支援の義援金として被災地に届けられます。



Éclair  
お菓子放浪記

吉井一肇 (新人)  
林 隆三  
高橋 恵子  
遠藤 憲一  
早 織

桑名市上映のご案内

原作：西村 滋 監督：近藤 明男「ふみ子の海」



いしだあゆみ  
山田 吾一  
尾藤イサオ  
竹内 都子  
松村 良太  
三上 寛  
太 賀  
春風亭昇太

主催

映画「エクレール・お菓子放浪記」桑名市上映実行委員会

問い合わせ先：

桑名市役所 福祉総務課内 TEL 0594-24-1208

映画「エクレール・お菓子放浪記」製作委員会

シネマどうほく オフィス近藤 フリズム 河北新報社 二館台放送 シネマ・ディスト  
IBC岩手放送 テレビユー山形 三金興業 社説高速印刷 横山秀夫建築設計監理事務所  
群馬共同映画社 秋田県映画センター 九州共同映画社 稲垣千草直人

助成：文化芸術振興費補助金 認定：文部科学省 後援：法務省保嬰局 認定：社団法人企業メセナ協議会



# <支えあう人の心のやさしさ>を

映画「エクレール・お菓子放浪記」の桑名市上映の成功に  
あなたのお力をお貸し下さい。

昨年3月11日、東北地方を中心に東日本一帯を襲った大惨禍は、一瞬にして数々の夢と希望を打ち崩しました。押し寄せた津波は、町の姿を一変させ、人々の暮らしを粉々に破壊しつくしました。未来が奪われ、絶望が町を覆いました。

こんな津波に破壊された宮城県石巻市をメインロケ地に、一本の映画が企画され、完成を迎えていたのです。

映画「エクレール・お菓子放浪記」がその作品です。この作品は、日本がああ悲惨な戦争に向かおうとしていた時代に、たくさんの人のやさしさに支えられながら、自らの未来に向けて精いっぱい生き抜いた一人の孤児の少年の物語です。

時代の閉塞感が語られるようになってしまった現代社会に、<支えあう人の心のやさしさ>を頼りに、その心を全国に発信すべく、宮城県民がその旗をかけたのは、今から数えるなら三年前のことでした。それ以来、夢の実現を願う宮城県民の願いは、県内に広がる大きな輪となって、この作品は昨年2月、無事完成をむかえたのです。

そして明けた3月10日、東京のニッショーホールで開催された完成披露試写会は、会場をいっぱい埋めた700名の感動の声に包まれていました。今のこの時代に<支えあう人の心のやさしさ>を語ろうとした宮城県民の願いは、見事な全国発信のスタートを切ったかに見えたのです。

ところが、翌日、東日本を襲った大惨禍は、こんな夢を一瞬にして打ち砕いてしまいました。映画に描かれた素晴らしい情景に被害はもたらされました。三年にわたる夢を語りながら、作品を生み出した宮城県では、どうい公開できる状態ではなくなってしまったのです。

しかしながら、私たちはこの作品に触れ、宮城県民が、わけてもメインロケ地となった石巻市民が心を込めて語ろうとしたこの作品の心が、実は今こそ日本国中に求められる心であることに気づかされたのです。この作品の心<支えあう人の心のやさしさ>は、今こそ一人でも多くの国民の胸に語らなければならない“心”であることを確信したのです。

私たちは心を込めて訴えます。

今こそ、この作品の心を広く市民に語りながら、その心を東北の被災地への支援の心につなげてゆきたいと願っています。どうぞ、こんな私たちの願いにあなたの手をつないでください。被災地に心をつなごうとする私たちの願いが、いつかは県下全域に広がる大きな“心つなぎの輪”となって育ってゆくことを信じて…。

# 今こそ桑名市に…

【名誉会長】

桑名市長 水谷 元



昨年3月11日に発生しました東日本大震災から1年余りが経過しました。

改めまして、犠牲となられた方々には謹んで哀悼の意を表しますとともに、被災されました皆さま、避難所生活を余儀なくされておられる皆さまに、心からお見舞いを申し上げます。

映画「エクレール・お菓子放浪記」は、宮城県石巻市など2市3町をメインロケ地として撮影が行われました。しかし、映画に描かれた素晴らしい風景は、この東日本を襲った大地震により、多くが失われてしまいました。

そのため、映画上映は一時中止となりましたが、この映画が「支えあう人の心のやさしさ」や「地域のつながり」を通じて、ともに生きることの大切さを考えさせてくれることから、全国各地で、復興支援活動の一つとして、上映会が開催されています。

被災地には、今なお全国各地から支援の手が差ししのべられています。被災地の復興には、まだまだ、様々な支援が必要です。

桑名市では、今回の上映にあたりまして、映画収益の一部を震災復興支援のため、被災地へお届けしたいと考えており、一人でも多くの方にこの映画を見ていただき、復興の一助となることを期待しております。皆さま方のご理解とご協力の程、よろしく願い申し上げます。



## もう一度

「お菓子放浪記」原作者 西村 滋



菓子類が消えてしまっていた戦争の時代。ひとりの孤児が甘い菓子にめぐりあえる日(つまり平和の日)を夢見ることで、孤独に耐えて生きてゆく。やがて戦争は終わるけれど、敗戦の混乱で人々の心は荒廃。闇市の菓子は法外の高値で、庶民の手はとどかない。希望を見失った孤児は墮落しそうになるが、あるひとの言葉。

「それならキミ自身がお菓子になればいい。つまり、キミがおいしい人間になるんだ」

によって、なんとか立ち直ろうとする。原作者として、いちばん大切な、そして大好きな場面です。

自伝的な作品なので、私は映画の中の少年時代の自分に再会しました。そして、もう一度人生を生きているような気がしました。「おいしい人間」の自信はないけれど、せめて「まずい人間」にはならないように努力してきたといううぬぼれがあったので、舞台で花束を受けた時は、そのホウビをもらったような気がし、そして、これがわが人生のフィナーレだと思ったのは、もう80歳をこえていたからですが、フィナーレどころではありませんでした。

その翌日の大震災。試写会は3月10日、66年前の東京大空襲で九死に一生を得ているので第二の誕生日と決めていた日です。その時の地獄の惨状が大震災の惨状にかさなりました。戦争は、平和を愛する人の心におかましくなく、大殺戮をやる。大地震は、自然を愛する人の心におかましくなく大破壊をする。どっちも心というものはないので。この時こそ、人間は人間の心で生きなければ。心あればこそ、この大きな試練の時、自分が「おいしい人間」でありうるかどうかを試されていることを思わなくては。

私も、もう一度生きなければと思っています。震災前の石巻や北上川の美しい風景がおさまっているこの映画を大切にしながら、小さな力でも被災地への一助となるために、人生のフィナーレは延期ということになりそうです。

## 映画「お菓子放浪記」桑名市上映実行委員会

名誉会長

水谷 元 (桑名市長)

会長

山中啓園 (桑名市社会福祉協議会会長)

委員

西村憲一 (桑名商工会議所会頭)

伊藤哲司 (桑名保護司会会長)

松永三吉 (桑名市民生委員児童委員協議会連合会副会長)

藤原 隆 (桑名市自治会連合会会長)

市川良子 (桑名市更生保護婦人会会長)

